

令和3年度 第2回 村上市地域包括支援センター運営協議会

日時 令和4年3月28日（月） 午後2時30分～

会場 村上市役所 4階大会議室

出席者 別紙参照

1. 開会（事務局）

2. 会長挨拶（会長）

3. 報告（事務局より、資料について報告する。）

（1）地域リハビリテーション事業について：資料1

（2）高齢者虐待の現状について：資料2

（3）成年後見制度利用促進のための事業の取り組みについて：資料3

（4）生活支援体制整備事業について：資料4

（5）在宅医療・介護連携推進事業について：資料5

（6）認知症施策の現状と今後の取り組みについて：資料6

（7）令和4年度事業計画について：資料7

質疑応答

Q（委員）：資料4の生活支援体制整備事業、2層あさひ互近所ささえ～る隊活動内容の「住民有志による複数回の移動支援及び買い物支援実験」、及び2層かみはやし互近所ささえ～る隊活動内容の「消防団とのワークショップ」の具体的な実施内容を教えてほしい。

A（事務局）：スポーツクラブ自主事業への参加者送迎を村上市社会福祉協議会や社会福祉法人の空き車両を借り、ささえ～る隊員も添乗員として参加した。

A（事務局）：消防団員を対象にワークショップを開催し、支え合いカルタなどを通して消防団活動のついでに自分達でできることを考えてもらった。

Q（委員）：資料3の高齢者虐待防止対策の現状と課題の説明の中で「認知症と高齢者虐待

の関係」「高齢者虐待の多い年齢層」「解決まで至らないケース対応」について教えてほしい。

A（事務局）：虐待者、被虐待者どちらかが認知症、また両者が認知症のケースもある。高齢者虐待ケースに年齢の偏りはなく、70～90代まで幅広い。夫婦間で日常的に長年続いていた虐待行為が高齢となり、耐え切れなくて通報に至ったケースもある。

Q（委員）：今年度の朝日地区通所サービスCモデル事業の取り組み内容を確認できる機会があれば教えてほしい。また利用者の評価方法も教えてほしい。

A（事務局）：取り組み発表を来年度にモデル事業の報告を兼ねて講演会を実施する予定。包括担当者と羽衣園担当で利用者宅を訪問し、生活動作を動画撮影して評価分析した。また毎回教室時に体力測定も行い、大分県の講師からも意見をもらい評価した。

Q（委員）：地域包括ケアシステムが言われ始めて長いですが、在宅医師の話の聞くと在宅医療訪問診療が普及するにはまだまだ高いハードルがあると思う。村上市では地域包括ケアシステムがどのレベルまで到達しているか教えてほしい。

A（事務局）：どのレベルまで進展したかについては、この度の各事業からの報告をもってかえさせていただきたい。在宅医師の高齢化は進んでいるが、訪問看護事業所数は増加しているため、何とかカバーできている。地域住民が医療機関へ受診できなくなった時のことを主治医へ相談するなど、声を上げることが大切。

Q（委員）：高齢者虐待対策で令和3年度以前に見守り対応したケースの具体的対応状況について教えてほしい。

A（事務局）：担当介護支援専門員と役割分担することで、家族に負担をかけないように訪問を継続し、顔の見える関係作りを心がけている。

4. その他 連絡事項等は特になし

5. 閉会（副会長）

民生児童委員との情報共有を大切にしていきたい。コロナ渦で計画通り事業ができなく大変だったようだが、介護分野でも世の中の状況に合わせて視点を変えて業務に取り組んでもらいたい。